

情報モラル学習指導案

日時 平成20年11月18日(火) 5校時

場所 2年4組教室

授業者 児玉 奈美

1. 主題名 来ないから 行ってるよ

2. ねらい (情報モラル指導モデルカリキュラム表)

発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ。(a2-1:相手への影響を考えて行動する。)

思いを伝え合う時、その方法によって伝わり方が違ってくることがあるということに気づき、相手への影響を考えて情報を発信しようとする態度を育てる。

3. 実践の背景

(1) ねらいについて

コミュニケーションの方法には、直接会って話す、電話、手紙、電子メールなど様々な形がある。直接会って話す場合や電話では、伝えたい内容と共に声の抑揚や表情で相手に気持ちを伝えることができるが、手紙やメールなど文字媒体だけのコミュニケーションでは伝える側の気持ちやニュアンスがうまく伝わらず、思わぬ行き違いが起こることがある。

低学年の児童は、文字媒体だけのコミュニケーションとはまだほとんどが無縁であるが、面と向かったやりとりでも、うまく気持ちを伝えられずに(受け止められず)トラブルになることが多々ある。

文字媒体だけのコミュニケーションの特性に加え、相手にうまく気持ちを伝えるためには何が大切かを考え、友達とよりよく関わられるようになってほしいと思い、本主題を設定した。

(2) 児童の実態

引っ込み思案でなかなか自分の思いを伝えられない児童が数人いるが、素直に自己表現できる児童がほとんどで、クラスの雰囲気は明るく休み時間には男女一緒になって元気に遊んでいる。

しかし、そういった遊びやグループでの活動の中でトラブルになることも多く、その都度、お互いに自分の言動を省み、相手の気持ちを考えて解決してきている。

トラブルの原因で「悪口や嫌なことを言われた。」というものの他に、「自分は強く言ったつもりはなかった。(しかし、相手にとってはきつい言い方になってしまった。)」 「知らんぷりをされた(相手は違うことに夢中で知らんぷりをしたわけではなかった。)」 『ごめんね』って言ったのに(許してくれない。)」など、コミュニケーションスキルの未熟さが原因と考えられるものも多く見受けられる。子供たちは、日常的に自分の意図や思いを伝えることの難しさを感じていると思われる。

(3) 資料について

「来ないから、行ってるよ」

子供たちが、自分の事として考えられるように日常で起こりそうな場面を設定した。

いろいろな受け取り方ができる1つのメモから、文字媒体によるコミュニケーションの特徴について考えることができると思われる。

4. 指導にあたって

思いやりの心をもって伝えようとするのが大切であることを、読みもの資料と役割演技の2つの大きな柱で考えさせたい。

①表情で気持ちを伝える体験をする。

表情だけで自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを想像したりできることを体験する。

②文字媒体だけによるコミュニケーションの特徴について考える。

発信したものが、受信する側によって捉え方が変わる場合があることを知り、相手がどう受け取るかを考えて発信することの大切さに気づく。

③役割演技で「伝わるように伝えること」を練習する。

相手に気持ちを伝えるためには、どんなことに気をつければいいか考え、役割演技で練習する。

5. 資料の概要

①なおや、まり、ゆうすけの3人は、仲良しでいつも一緒に遊んでいる。今日は3人で秘密基地をつくって遊ぶことになり、待ち合わせをする。

②ゆうすけは、一度家に帰って約束の時間までゲームをして待つことにするが、ゲームに夢中になり約束の時間に遅れてしまう。

③待ち合わせの場所になおやとまりの姿はなく「来ないから、行ってるよ」と書かれたメモだけが残されている。

④ゆうすけは、二人が怒っていると思い、そのまま家に帰ってしまう。

⑤翌日、ゆうすけは二人になんと言って謝ろうかと考えながら学校へ行く。すると、なおやとまりが、すまなそうな顔でゆうすけの方へ来て「ごめん…」と謝ってきた。

⑥ゆうすけが驚いて「ぼくのこと、怒ってたんじゃないの？」と聞くと、なおやとまりは「ちがうよ。待ちきれなくて、僕たち、ゆうすけのことおいてけぼりにしちゃったんだ。」と答える。

⑦「怒ってたんじゃないかったんだ。」(ゆうすけは自分の勘違いに気がつく。)

6. 本時の指導過程

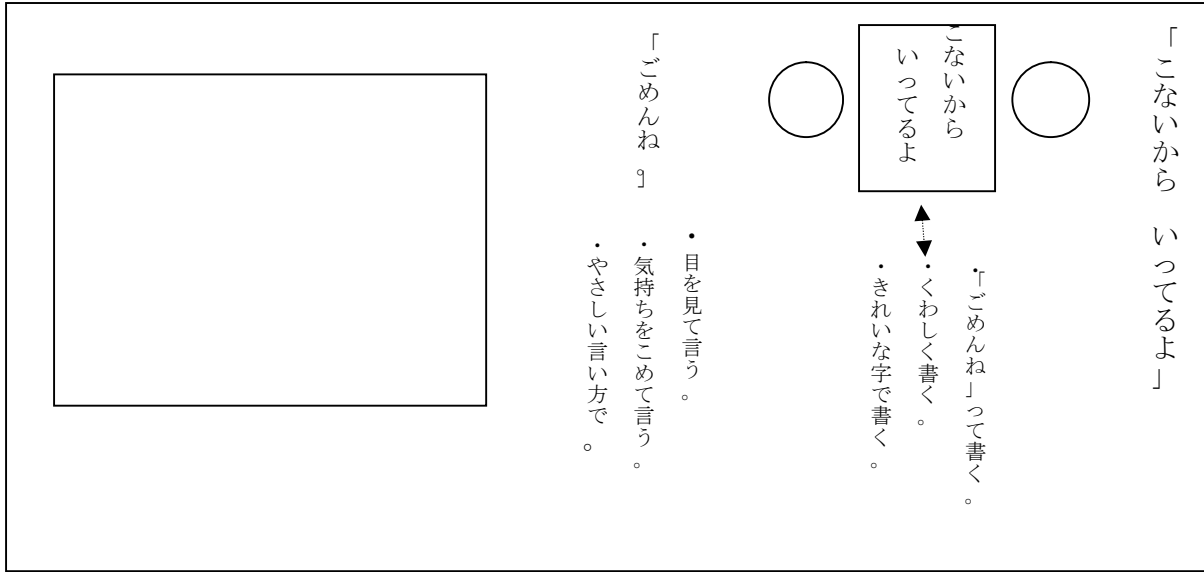
	主な学習活動（主な発問・予想される児童の反応）	指導上の留意点
導入	<p>1. 表情で気持ちを伝えるゲームをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">これから、ジェスチャゲームをします。 今日、伝えるものは『気持ち』です。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単だよ。 ・前に上手く伝わらなかったから、今度は頑張ろう。 <p>2. 表情で気持ちが伝わることを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">言葉や声がなくとも、顔を見ると相手の気持ちが分かるね。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○5人で1チームになる。表情だけで気持ち（悲しい・怒っている・うれしい）を伝えていく。 ○表情カードを提示し、練習してみる。 ○速さではなく、正しく伝えられるかが大切だということを全員で確認する。 ○表情豊かに伝えようとしていた児童をほめるようにする。 ○正しく伝わらなかったグループには、何が難しかったか聞く。
展開	<p>3. 資料（A～F）を読み、なおやとまりがどんな表情でメモを書いたか考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">なおや君とまりちゃんは、どんな顔でこのメモを書いたのでしょうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・怒っている感じがする。 ・どうしたのかなあって心配してる。 ・遅いからもう待ってられなくて怒っている。 ・ごめんねの気持ちで書いたと思う。 <p>4. 資料の続き（G）を読み、ゆうすけがメモをどのように受け取ったかを知る。</p> <p>5. 資料の続き（H）を読み、ゆうすけの勘違いだったことを知り勘違いが起きた原因を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">なおや君とまりちゃんは怒って書いたつもりはないのに、ゆうすけ君が『怒っている』とってしまったのはなぜでしょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいな字で書いていないから。 ・字だけだと表情が伝わらないから。 ・詳しく書いてないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料A～Fを読む。 ○「来ないから、行ってるよ。」のメモで話を一度とめて、なおやとまりの気持ちを想像する。（ワークシート） ○選んだ表情を発表し、その表情に合わせて「来ないから行ってるよ」を声に出してみる。 ○いろいろな意見が出るよう、どの意見も認めてたくさん発表させる。 ○ゆうすけと同じように受け取った人や、違う受け取り方をした人など確認する。 ○メモの実物、ゆうすけの表情、なおきとまりの表情を提示し、メモを通して両者に勘違いが起きたことを明確にする。 ○ワークシートに記入し、本当に伝えたかった気持ちを確認する。 ●待ち合わせに遅れたことや待っていてあげなかったことを捉えている児童には、板書を使ってメモに着目させる。

	<p>6. 正しく伝えるためにはどうすれば良かったか考え、ワークシートに書き、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">『ごめんね』の気持ちをきちんと伝えるにはどう書けば良かったのでしょうか。なおや君・まりちゃんになったつもりで書いてみましょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・先に行ってるね。ごめんね。 ・ゆうすけ君、わるいけど行ってるね。ごめんね。 ・先に行って、まってるからね。 <p>7. 直接伝える時に気を付けることを考え、最後の場面の役割演技をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">では、顔を合わせて『ごめんね』をする時はどんなことに気を付ければ良いのでしょうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・やさしい言い方をする。 ・顔（目）を見てあやまる。 ・気持ちを込めて言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表を板書する。 ○『ごめんね』の言葉やマークなどで気持ちを表現しようとしているものを取り上げる。 <ul style="list-style-type: none"> ○数人に発表させる。 ○なおや君・まりちゃん側とゆうすけ君側に分かれて役割演技をする。 ○上手にできている児童に、前で発表させる。
ま と め	<p>8. 感想を書き、学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">今日のお話の感想を書きましょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・文字だけで伝えるときは、よく考えて書かないといけないと思った。 ・くわしく書かないとうまく伝わらないということが分かった。 ・手紙でも、会って話す時もちゃんとその人のことを考えて書いたり、言ったりしなきゃいけない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">文字で何かを伝える時も、顔を見ながら話す時も、相手のことをよく考えて伝えることが大切なのですね。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○思いやりをもって伝えることの大切さについて書いている児童に発表させる。 ○板書で本時の学習をふり返り、伝え方が違っても相手のことを思いやって伝えることが大切であることを確認する。

7. 評価

- ・伝え方によって自分の思いが上手く伝わらないことがあること、どんな方法であっても、相手のことを思いやって情報を発信しようとする大切さに気づくことができたか。（ワークシート、発表）

8. 板書計画



9. 準備物

- ・資料「来ないから、行ってるよ」
- ・ワークシート
- ・液晶プロジェクター
- ・メモ
- ・表情カード

資料

- A. なおや、ゆうすけ、まりは、同じクラスの仲良し3人組。学校から帰った後も、いつもいっしょに遊びます。
- B. 「ねえ、今日は何して遊ぶ?」「う〜ん…そうだ!学校の裏山に、3人で秘密基地作ろうよ!」「落ち葉もいっぱいあるし、いいねえ!!」
こうして今日は、3人で秘密基地をつくって遊ぶことになりました。
- C. 3人は一度家に帰って、また集合することにしました。待ち合わせの時間は3時です。
「じゃ、3時に校庭の鉄棒前に集合だよ!」「うん!」「またねー!」
- D. ゆうすけは家について、まずおやつを食べました。その後宿題をしました。それでもまだ時間があつたので、ゲームを始めました。ところが…ゲームに夢中になっているうちに、待ち合わせの時間が過ぎてしまいました。
- E. 「わっ!ま、まずい!」ゆうすけは、家を飛び出して待ち合わせの場所へ大急ぎで向かいました。
- F. ゆうすけが待ち合わせの場所に着くと、そこになおや君とまりちゃんはいませんでした。そのかわり、鉄棒に何か残されています。
「なんだろう?」
近づいてみると…

こないから いったるよ

- G. ゆうすけはこう思いました。
「二人とも、ぼくがこないからきつと怒っちゃったんだ…。ううん…。明日、ちゃんとあやまらなきゃ。」
- H. つぎの日の朝、
「まだ怒ってるかなあ。なんてあやまろう…。」
ゆうすけがしょんぼり歩いていると、後ろからなおや君とまりちゃんがやってきました。
二人ともなぜか元気がありません。
「おはよう、ゆうすけ。…昨日はごめんな。」
「えっ?」
ゆうすけが驚いていると、まりちゃんも
「ごめんね。ゆうすけのことおいてけぼりにしちゃって…。」

「えっ。二人ともぼくのこと怒ってたんじゃないの?」
「ううん。違うよ!ぼくたちゆうすけに『ごめんね。先に行っちゃおうよ!』の気持ちで書いたんだよ…。」